



いしかわ労福協

新年号 2026年1月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会

発行責任者 小水 康史

編集人 奥村 賢志

〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号

電話 (076) 231-1737

FAX (076) 231-1731

<https://www.ishikawa-rofukukyo.jp>

info@ishikawa-rofukukyo.jp

毎月1回 25日発行



石川門 (冬)



「福祉は一つ」地域福祉の歩みを止めない

(一社)石川県労働者福祉協議会

理事長 小水 康史

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、石川労働者福祉協議会の活動に対し、温かいご支援とご協力を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

石川労福協は、「福祉は一つ」の理念のもとに、

- 生活支援・相談支援の充実
- 災害に強い地域福祉の構築

- 働く人と家族の“くらしの安心”づくり
 - 地域コミュニティ支援と共助の輪の拡大
- に向けて、今年も着実に取り組みを進めてまいります。

2026年は午(うま)年です。地域福祉の歩みを止めることなく、午年の勢いに乗り、福祉の力で石川の未来へ力強く駆けてまいります。

本年が、皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますよう、心より祈念申し上げます。

本年もよろしくお願いいたします。



「災害からの復旧・復興と成長する産業づくりに向けて」

石川県知事
馳 浩

令和8年の新春を迎え、皆様には、謹んでお慶び申し上げます。また、日頃から県政の推進にご理解とご協力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

県政史上未曾有の大災害となった令和6年能登半島地震の発生から2年、令和6年奥能登豪雨からは1年3ヶ月余りが経過しました。これまで県内外の皆様からいただいた多大なるご支援に対して、改めて御礼申し上げます。

県では、各種インフラの応急復旧はもとより、被災された方々の生活再建や、事業者の生業の再建へ向けた取組を着実に進めてまいりました。引き続き、国、市町、関係団体等と緊密に連携し、一日も早い復興に向けて、様々な課題に全力を挙げて取り組んでまい

ます。

特に被災地の雇用対策につきましては、奥能登行政センター内のILAC能登において、プッシュ型の相談対応、在籍型出向の活用促進等を行い、被災事業者の雇用維持・人材確保や被災者の就労支援に努めております。

また、被災地等で合同企業説明会を開催し、求人・求職のマッチングを強化するとともに、新たな職場で必要とされるスキルを習得するための職業訓練実施の支援を行っているところでございます。

貴協議会におかれましては、就業等の相談への対応や仕事と育児の両立支援など、本県の労働者福祉の向上に多大なご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

この新しい年が皆様にとりまして、明るい展望の持てる年となるよう心からお祈り申し上げますとともに、県政に対する一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



石川県市長会
会 長 村山 卓
(金沢市長)

謹んで新春の祝詞を申し上げます。皆様方には、日頃から県内各市の市政推進に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、労働者の生活の安定と福祉の向上にご尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

一昨年には、能登半島地震や奥能登豪雨災害が相次いで発生しました。労働者・企業ともに一層困難な状況におかれている中、一日も早い復旧・復興をめざし、引き続き、被災者に寄り添った取組を進めてまいります。

さて、雇用情勢につきましては、県内最低賃金が3年連続で過去最大の引上げ幅となるなど、賃上げの動きが続く一方、有効求人倍率は高水準で推移し、一部業種では人手不足が顕著となっております。本会としましても、引き続き、持続可能な活力ある社会や働き方改革の実現に向け、若者の地元定着を図るとともに、女性や高齢者等の就労支援について、貴協議会をはじめ関係団体と連携しながら取り組んでまいります。

新しい年が皆様にとりまして、明るく希望に満ちた年になりますようご祈念申し上げますとともに、本年もより一層のお力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



石川県町長会
会 長 前 哲雄

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年も、県内各町は、その振興発展と住民福祉の向上に決意新たに取り組んで参りますので、ご支

援とご協力をお願いいたします。

令和6年能登半島地震から早や2年が過ぎましたが、未だご不便な生活が続いている事と存じます。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた方へ、改めて心よりお見舞いを申し上げます。

さて、北陸の経済動向については、震災の影響はありつつも、復旧・復興に伴う公的需要や、インバウンドを含む観光客の回復もみられることなどから、緩やかに持ち直しているようですが、依然として物価上昇が私たちの生活を直撃しており、多くの人々が厳しい状況に置かれています。

また、事業者におきましても、人口減少と少子・高齢化など、構造的な社会課題がもたらす人手不足への懸念、最低賃金の引上げへの対応など、取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした中で、私たち自治体は一日も早い復旧・復興をめざしつつ、雇用の維持と定住促進のほか、セーフティネットの充実等の施策に全力を尽くしていかなければなりません。

石川県労働者福祉協議会並びに関係の皆様におかれましても、自立する地域行政のため、安全で安心して暮らせる地域づくりのため、更なるご支援、ご協力を切にお願いいたします。

結びに、本年が皆様方にとって健康で幸多い一年でありますよう心よりお祈りいたしまして、年頭のご挨拶といたします。



労働者福祉中央協議会

会 長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、7月に実施された第27回参議院選挙により、衆参両院で少数与党となる政治情勢となり、政局の構図が大きく変化しました。こうした政治情勢の中、食料品やエネルギーなど生活に直結する物価の上昇が続くなど、国民生活の厳しい状況は改善されていません。

労福協が進める「高等教育費負担の軽減」については、昨年3月に「大学等における修学の支援に関する法律」(大学等修学支援法)の改正が実現しました。しかし、支援対象は扶養する子が3人以上の多子世帯などの一部の拡充に留まる結果となりました。高等教育への進学率が9割近くに上る中、同じ学生であっても支援を受けられる人と受けられない人が発生しており、学生間でも分断が生まれています。私たちは引き続き、教育の機会均等や奨学金制度の改善を通じて、誰もが安心して学ぶことのできる社会の実現に向けた取り組みが求められています。

また、共同組合運動の振興と労働者福祉運動の発展に向けた取り組みとして、昨年は2025国際協同年を記念して労働団体・事業団体・地方労福協はもちろんのこと、地域の様々なネットワークとの連携を推進してきました。本年も引き続き、お互いを支え合い助け合う、地域共生社会の実現をめざす取り組みとして、具体的な対応を進めていきます。

今、私たちはめまぐるしく変化する社会に生きています。しかし、社会がいかに変化しようとも、労福協の理念である「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・共同で安心・共生の福祉社会をつくる」ことは変わりません。私たちは、本年も「福祉はひとつ」の思いの下、社会的な連帯と共助の輪を広げ、労働者福祉の取り組みを強く展開していくことをお誓い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



北陸労働金庫

理事長 西田 満明

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は北陸労働金庫をご愛顧いただき心よりお礼申し上げます。

さて、昨年12月に行われた日銀政策決定会合では政策金利を現行の0.5%程度から0.75%程度への引上げを決定し、今後、経済や物価が想定通り推移すれば、「引続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調節する」と利上げを継続する方針が示されました。

また、日銀金沢支店が昨年12月に発表した金融経済月報においては、北陸の経済状況に関し、北陸三県の景気全体判断は「一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している」とし判断を据え置く状況であります。先行きとし、「能登の復興」「関税の影響」「資材上昇・人手不足」「賃上げ動向」「物価高」を2026年の北陸経済のポイントとして挙げており、金庫としても注視しております。加えて、消費は持ち直し、生産は業種ごとに「プラス・マイナス」があるものの大きくみて改善しており、今後の見通しについては、雇用や所得の環境に前向きな循環が生まれてくるかを注視する必要があるともみています。

弊庫では本年「北陸労働金庫創立25周年」を迎える節目の年となります。能登復興への想いを継続するとともに、生活総合福祉金融機関の使命・役割を果たすために、「はたらくひとの笑顔をつなぐ“ろうきん”」のビジョンの基、働く方々の生活設計、資産形成、可処分所得向上に向けた「生活応援運動」に取り組んで参ります。

結びに、皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。年頭にあたったの挨拶とさせていただきます。



日本労働組合総連合会石川県連合会

会 長 小水 康史

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より労働者福祉の向上にご尽力いただいております皆さまに、連合石川として深い敬意を表します。

2026年も、連合石川と労福協は、「福祉は一つ」の理念のもと“二頭の馬が息を合わせて走る「合わせ馬」”のように、歩調も視線も未来へとそろえ、誰もが安心して暮らせる石川の実現へ、ともに力強く駆け抜けてまいりましょう。

石川労福協関係団体、地域ライフ・サポートセンター関係各位の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。

本年もよろしく願いいたします。



こくみん共済 coop 石川推進本部

本部長 黒谷 治夫

謹んで新春の挨拶を申し上げます。

令和6年能登半島地震、能登半島豪雨により被災されました皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。また、復旧・復興に邁進されていますことに敬意を表します。

住まいる共済(火災、落雷、風水害の備え)に、自然災害共済(地震、風水害、盗難の備え)の未付帯者が石川県内で依然多く、引き続き保障不足者の見直しの機会となるよう積極的に見積もり活動を推進していきます。

本年も皆さまの安全・安心のための「たすけあいの輪」をむすんでまいります。

皆さまがご健勝でご多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。



(一財)ろうふく支援財団いしかわ
理事長 渡邊 雅人

新年あけましておめでとうございます。

昨年、当財団は現在の名称に変更した以降、次の取り組みを中心に展開してきました。

奥能登2市2町の高校生への被災者救済の給付型奨学金は本年1月1日までに計18万円を支給し405名の学業を支援しています。

昨年、春からの経済的困窮を理由とした学業困難な高校生30名への奨学金も12万円を同じく支給しています。この奨学金は本年4月から新1年生に対し30名枠で募集・実施します。

フードバンク事業は、昨年は米不足や物価高に全体が苦しみ、その影響下、各方面からの食品寄贈数も減少し、いしかわフードバンク・ネットの在庫は厳しい状況が続きました。対策として政府備蓄米の交付申請をし、結果として昨年9月～本年2月までの給付を得ています。また各種PRもして、食品確保に務めて、子ども食堂等からの高い食品需要に対応すべく連日、奮闘してきました。

文化教養では、北陸労働金庫によるマネーセミナー開催の支援と学業支援の二つの目的で飯田高校へ寄付金10万円も支給し、今後のセミナーの継続の為の関係づくりに寄与しました。

この様に各活動により現在は少しでも当財団の存在意義を高めてきたのではないかと思います。

これからも皆様方のご理解・ご協力をお願いするとともにご健康とご多幸を祈念し、新年のご挨拶と致します。



石川県勤労者体育協会
会 長 高 芳晴

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに2026年をお迎えのことと、お慶び

申し上げます。

日頃、本協会の事業推進に、ご支援とご協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

令和6年能登半島地震からの復興は、未だ道半ばです。これからもスポーツを通して、勇気・元気を与える中で、復興を支援して参ります。また、日本で唯一の勤労者のスポーツ団体として、職域や地域にスポーツの普及・振興を図るとともに、誰もが気軽に参加できる大会を通して、健康寿命日本一達成にも貢献して参ります。

結びに、本協会の事業推進に、本年も関係団体のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



石川県生活協同組合連合会
会長理事 大谷 学

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

能登半島地震から2年、奥能登豪雨災害から1年3か月がたちました。能登半島地震、奥能登豪雨災害でお亡くなりになった皆様のご冥福をお祈りし、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

能登半島地震の発災から、生活協同組合は「たすけあい」の組織として、能登に笑顔が戻る日をめざして支援活動に取り組んでまいりました。これからも、どこよりも長くそしてきめ細かく一人一人の暮らしに寄り添い続けていきます。

暮らしを見ると、物価高騰などにより年を追うごとに厳しさが増しています。誰も取り残されることがなく、安心して暮らし続けられる社会をめざし、微力ではありますが一層の努力を続けていきます。本年もよろしくお願いいたします。



石川県勤労者文化協会
会 長 大樋 長左衛門

新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはご清祥にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。労福協、連合石川、各事業団体の皆様には日頃から勤労者文化協会へのご厚情に感謝申し上げます。

昨年は年前半に小品中心の夏の美術展を、年後半には勤労者美術展を順調に開催することができ、今後の勤文協活動の標準形として確定することができました。

勤文協は、労福協事業の一環として、芸術・文化の向上に寄与してきましたが、本年もご協力を賜りますとともに、皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げて新年のご挨拶と致します。